

平成28年度 指定管理者モニタリング結果及び評価シート

評価期間 平成28年4月1日 ～ 平成29年3月31日

施設状況

施設名称	ふじみ野市立子育てふれあい広場	所管課	子育て支援課
指定管理者名	社会福祉法人むさし野たんぽぽ会	施設分類	子育て支援施設
指定期間	平成26年4月1日～平成30年3月31日	利用料金制導入	一部利用料金制(利用料金及び指定管理料)
導入年月日	平成18年9月1日	指定回数	3回
施設設置目的	子育てふれあい広場は、乳幼児を子育て中の家庭に交流の場を提供するとともに、子育てに関する情報の提供、助言及び乳幼児の一時預かりの実施など、子育て家庭に対する総合的な支援を行うことにより、地域における子育て支援基盤を形成し、誰もが安心して子育てができるまちの実現をめざし設置。		
施設概要	【開設】平成18年9月1日【敷地面積・延床面積】295.88㎡【施設内容】一時預かり室80.97㎡、集いの広場107.71㎡、事務室17.35㎡、幼児用便所18.24㎡、調乳室4.38㎡、授乳室5.26㎡、休憩・更衣室10.75㎡、前室51.22㎡		
管理運営の基本方針	①子育てふれあい広場の設置目的に照らし適切な管理運営を行う。②公の施設であることを念頭に置いて、公平な運営に努める。③利用者の意見を反映する。④個人情報保護を徹底する。⑤苦情解決体制をとり、サービス向上に努める。⑥効率的な管理運営に努める。⑦管理責任者及び火元責任者を配置する。⑧従事者の研修を行い資質向上に努める。⑨健康診断を行い、健康管理に努める。⑩安全管理に配慮し火災、損傷を防止し財産の保全を図ると共に利用者及び事業従事者の安全確保に努める。⑪衛生管理に配慮し、快適な状態の保持に努める。⑫火事、事故等の緊急事態に備え、防災計画を定め避難、救出等の訓練を定期的実施する。		
指定管理者の主な業務	①子育てふれあい広場の維持管理。②子育て家庭に対する交流の場(つどいの広場)の提供及び相談業務。(各種行事・活動の企画実施、子育てに関する講習会の開催、子育てグループの育成等)③乳幼児の一時預かり業務。④子育てネットワークの構築。		

【評価項目】

【評価基準】 5:目標値以上の結果で、指定管理者のノウハウや努力等によるところが大きいと評価できる場合/4:目標値以上の結果(5以外)/3:目標値に達している場合/2:目標値をやや下回る場合/1:目標値を大きく下回る場合

1 指定管理者の健全性

施設の設置目的や市が示した基本方針、また、自ら提案した内容に沿った管理運営であったか また、団体の財務状況や組織体制は安定していて、施設管理を継続的、安定的に行うことができるか	評価
特記事項 (問題等があった場合)	市の基本方針、事業方針に沿った運営管理は実施されている。全ての活動は継続と連携の中で、子育て家庭にとって取り入れて欲しい内容で構成されている。意見やニーズを取り入れて、活動内容に反映している。
	3

2 施設の有効活用

施設利用状況	利用区分等	予定(計画・目標) 単位	利用実績 単位	対前年比	年度目標達成率	評価
	つどいの広場	24,177 人	21,976 人	90.9%	90.9%	
乳幼児の一時預かり保育	1,233 人	1,138 人	92.3%	92.3%		
子育て相談	201 件	186 件	92.5%	92.5%		
	(特記事項) 支援の場が増えたことにより、利用者が分散し来所者の減少傾向が見られた。利用者の年齢が0、1歳児が中心となり、昨年度同様に取り組みや事業への参加も低年齢化した。結果、利用実績が昨年度に比べて若干減少した。					
事業実施内容	区分	協定内容・指定管理者提案		追加事業、未実施事業及びその理由		
	市指定事業	ふれあい広場の維持管理に関すること ・子育て家庭に対する交流の場に関すること ・子育てに関する情報の提供に関すること ・子育てに関する相談業務に関すること ・子育て及び子育て支援に関する講習の実施に関すること ・子育て家庭の支援に関する関係機関との連携に関すること ・乳幼児の一時預かり保育に関すること		未実施事業はない。		
自主事業	・あかちゃん体操・親子リズム・わらべうたあそび・よみきかせ・制作タングラム・人形劇・父親支援講座・35歳以上で初ママの交流会 ・親子バンド活動 ・おもちゃの広場～「木のおもちゃをはじめグッド・トイに選ばれた良いおもちゃに触れる機会を提供する」事をめざす市民グループと共同で、「おもちゃの広場」を3回取り組んだ。 ・父親支援講座と市内父親支援グループとの連携を図った。 ・子育て講座、講習の実施		未実施事業はない。			
サービス向上の取組	①講座を含め、全ての取り組みで利用者のアンケートを実施し、事業の内容に反映したり、次年度の取り組みに生かしている。 ②苦情があった場合、施設長は苦情解決責任者として、真意を調査の上全職員で話し合いを持ち対応できるようにしている。					

3 利用者評価

区分	内容		評価
利用者の要望把握	(1) 利用者要望把握方法	全事業でアンケート調査を実施している。	3
	(2) 調査、会議等の内容	①利用者のアンケート内容については、事業後の反省会で検討する。また、2月に行う次年度事業実施計画に向けての職員会議で検討し次年度の取り組みに生かしている。 ②毎月第一木曜日(休館日)に職員の運営会議を実施し、運営確認、問題点、職員学習会にあて、利用者の要望についても話し合いを持ち運営に生かせるようにしている。	
	(3) 調査、会議等の結果	事業後の反省会では、意見や要望についても話し合い、内容や運営の仕方に生かす事が出来ている。	
利用者からの評価・要望・苦情等	(1) 良好とする評価	・手作りおもちゃが良い ・施設が明るくてきれい ・子育ての悩みを職員に相談しやすい ・土、日、祝日も利用が出来て助かる	3
	(2) 苦情・改善等の要望事項	①つどいの広場…食事ができるようにしてほしい。 ②一時預かり保育…当日申し込みでも受けてほしい。  《対応措置》 ・上記内容については対応できない。 ①建物の構造上、食事場所が取れない。また開設当初お弁当や買弁を持ち込み集団で一日騒ぎ、他の親子がふれあい広場に入っていけないという状態があった。子どもの生活リズムをつけるためにも、お昼はお家で食事をしてお昼寝が終わってまた来るようにした。 ②当日受付では保育士のシフトが組めない等の理由による。	

4 事業収支

事業収支 (単位:円)	指定管理者収支(平成28年度)				市の収支				評価	
	年度計画額		収支実績額		平成28年度決算		平成27年度決算(前年度)			
	項目	金額	項目	金額	項目	金額	項目	金額		
収入	利用料金	2,255,000	利用料金	2,287,050	歳入	施設使用料		施設使用料		3
	指定管理料	25,500,000	指定管理料	25,500,000		行政財産使用料		行政財産使用料		
	自主事業※		自主事業※			国庫支出金	5,029,000	国庫支出金	3,977,333	
	その他収入		その他収入	215,632		県支出金	5,029,000	県支出金	3,977,333	
						その他		その他		
	計	27,755,000	計	28,002,682		計	10,058,000	計	7,954,666	
	支出	人件費	24,158,680	人件費		22,975,994	歳出	修繕料		
設備管理費		1,300,000	設備管理費	1,281,115	保険料			保険料		
備品購入費			備品購入費		指定管理料	25,500,000		指定管理料	25,500,000	
修繕費		100,000	修繕費		業務委託料			業務委託料		
光熱水費		700,000	光熱水費	703,479	土地・建物賃借料			土地・建物賃借料		
事業費		350,000	事業費	448,946	その他			その他		
事務経費		350,000	事務経費	351,294						
本社経費		796,320	本社経費	845,100						
その他			その他							
計		27,755,000	計	26,605,928	計	25,500,000		計	25,500,000	
損益	0		1,396,754	差引	△ 15,442,000		△ 17,545,334			
※自主事業は 該当箇所のみ 記載すること	自主 事業 ※	収入		収入						
		支出		支出						
		自主事業損益	0	自主事業損益	0					
人件費比率【人件費／指定管理者事業支出】								86.3%		
本社経費が、計画額と実績額で異なる理由				NPOから社会福祉法人への切り替えにあたり準備していた事務費以上の支出があった。						

5 管理運営全般 ※すべて「適」で「3」。「4」「5」とする場合は、評価理由欄に理由を記載すること。

区分	確認内容		適否欄	評価
職員配置	1 施設管理運営に必要な人員が適正で有効に配置されているか		適	3
	配置実績	職員7人、パート3人		
	2 専門性を備えた職員、有資格者が必要に応じて配置されているか			
	3 労働関係法令を遵守し、職員の適正な労働条件を確保しているか			
	4 職員の資質・能力向上を図り、施設を適切に運営するための取組みや研修がなされたか			
平等利用	1 特定の団体や個人に偏らない、公平・公正な、透明性の高い運営がなされたか		適	3
	2 利用許可、減免等の事務手続きが適切に行われたか			
経理	1 施設の管理運営に係る収支の内容や、指定管理料、利用料金等の取扱いは適切に行われたか		適	3
	2 収支内容等を記載した帳簿を整備しているか			
施設・備品の維持管理	1 必要とされている保守、点検、清掃、保安、警備等、必要な維持管理業務が確実に行われたか		適	3
	2 備品は台帳、目録等を整備の上、管理が適正に行われたか			
その他	1 日常的、定期的に業務の点検、監視が行われたか		適	3
	2 事業計画・報告書、予算書・決算書や、施設の利用状況などの定期報告、点検・検査結果報告などが規定どおり提出されたか			

6 危機管理体制 ※すべて「適」で「3」。1箇所でも空欄の場合は「1」。「4」「5」とする場合は、評価理由欄に理由を記載すること。

区分	確認内容		適否欄	評価
安全対策	1 危機管理マニュアルが整備されているか		適	3
	2 危機管理マニュアルの内容が職員に周知されているか			
	3 常に、日常の事故防止などに注意を払っているか			
個人情報保護	1 施設の利用者の個人情報を保護するための対策が適切であったか		適	3
防犯、防災対策	1 防犯、防火などの対策、体制が適切であったか		適	3
	2 防災訓練など、必要な訓練が実施されたか			
緊急時対応、体制	1 事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか		適	3
	2 必要な保険に加入するなど、利用者などからの損害賠償請求への対応措置が講じられているか			

7 施設の設置目的の達成に関する取組

区分	具体的な取組の状況・実績		評価
父親支援講座 支援グループの育成	今年度の父親支援講座では、参加者から「叱るとは」「父親の役割」「受容力」「しつけ」について深め合いたいとの要望があり、ワークや話し合い等でじっくりと意見交流ができ、それぞれの気づきにつなげることができた。講座の初回を家族参加にしたことで、交流がきっかけとなり父親サークルの他に母親サークルもでき、時には家族ぐるみでの交流が行われており、子育ての支えにもなっている。		3
ママ友グループの育成	「35歳以上で初ママのつどい」のママ友グループの育成を引き続き実施。数組のママ友グループが生まれており、グループ同士の横のつながりや、知り合いが加わるなど変化を遂げながら交流が続いている。		
子育て講座	今年度は9回の子育て支援講座を実施した。「初めての夏の過ごし方」「小児救急」では、保健センターの保健師さんを講師に行った。お母さん達は疑問や質問に答えてもらい不安の解消につながったと喜ばれた。子育て講座「大切にしたいこと」は発達の基本を踏まえた具体的な内容に焦点を当てたもので、参加者からは「わかりやすくとても役に立った」という感想がよせられた。		

総合評価

総合評価		子育て支援施設	
総合評価	評価項目	評価	
	指定管理者の健全性	3	
	施設の有効活用	3	
	利用者評価	3	
	事業収支	3	
	管理運営全般	3	
	危機管理体制	3	
	施設の設置目的の達成	3	
評価理由	<p>相対的に基本協定書の取り決め及び仕様書の内容により管理運営を実施している。コスト削減にも積極的に取り組んでおり、安心できる施設となっている。定期的に子育て支援拠点会議にも出席しており、市との連携も図られており、子育て講座なども組み合わせることで、市内子育て支援グループの育成にも貢献している。他の子育て支援センターや保育所の増加により、利用者が分散され、子育てふれあい広場においても利用者数は減少傾向にあるが、独自の特色を出すことにより、低年齢の利用者が多くなっている。子育てふれあい広場としての役割も理解しており、年齢層にあった事業への工夫が今後さらに期待できる。</p>		
取組・改善案等 (施設所管課)	前年度からの課題・改善事項	実施状況	次年度へ向けての目標・取組・改善事項
	<p>子育て支援拠点が増加し、利用者が分散化され、0～2歳児の子育てふれあい広場の利用者が増え、逆に2歳以上の利用者が減少している。</p>	<p>利用者の低年齢化に合わせ、事業もニーズに合ったものにした。</p>	<p>利用者の低年齢化に重点を置きつつ、2歳児以上の利用割合の減少傾向に歯止めをかけるため、各年齢層に合った事業を展開するとともにHPなどの広報活動を強化する。</p>

【総合評価】 S:極めて優れている/A:優れている/B:やや優れている/C:適正である/D:努力が必要である/E:改善が必要である

【指定管理者自己評価】

【指定管理者自己評価基準】 A:計画や目標を上回る/B:計画や目標をやや上回る/C:計画や目標どおり/D:計画や目標をやや下回る/E:計画や目標を下回る

指定管理者自己評価

(1) 評価期間の取組に対する評価

① サービス向上に向けての取組

- C) ・計画は前年度実績を基準に、利用者のニーズや利用者の幼児の年齢に合わせて活動を計画し、集いの広場利用者との連携した活動計画が組まれている。
- ・平成28年度ふじみ野市の子育て拠点施設が11か所に増設された。それに伴い利用者の分散化や集いの広場利用児の低年齢化0歳から1歳が進んだが「ひろば」では、ふじみ野市民の子育て家庭の条件整備が進んだと判断し、「ひろば」ならではの活動に力を注いだ。
- ・集いの広場の取り組み・活動を見直し、低年齢化に対応する内容に変えた。また、父親支援講座から生まれた「コネクターチャン」の会も自立し市内全域で活動を展開できるようになり、新たな父親支援講座を実施できるようになった。
- ・結果、評価期間の利用者の目標値は若干低めに推移したが、むしろ落ち着いて「集いの広場」活動に取り組めるようになった。

② 業務の効率化に対する取組

- B) 非常勤職員を含めすべての職員が保育士ないし幼稚園教諭資格を有し、社会福祉士・精神保健福祉士を有す職員、介護福祉士・相談支援専門員もおり、保育園幼稚園勤務経験者で職員は構成されている。同じ職員が複数の活動を兼任し、事業効率を上げている。

③ その他

(2) 管理業務実施上の課題

- ① 職員の定期昇給・給与の見直し等で人件費が上がってきており、一時保育料の収入を当てることになるため、一時保育利用料の若干の値上げを希望する。
- ② 相談支援の機関マップを作成できると、相談連携がわかりやすくなる。

(3) 次年度以降の取組

- ① 父親支援の第2グループの育成。
- ② 音楽を媒介にした親子グループの育成。
- ③ 一人ぼっちにならないでの子育てサロン活動の具体化、「わいわい子育て」。